□2019 年度製図試験 com コースまとめ資料

by 製図試験.com ver1.0 版

□内容

このまとめ資料は、一級建築士設計製図試験対策で直前対策セミナー・コース生用に資料としてまとめたものです。
最終まとめ動画は、木曜日夜にアップ予定です。
http://seizushiken.com/2019matome-GO/

１．　合格するために必要なことと製図試験のポイント
２．　過去課題にみる合否ポイント、
３．　本年度課題分析、失格項目整理、出題パターン、逃げの一手
４．　本試験想定イメージ
５．　最終チェックリスト

１．合格するために必要なこと

① 試験のしくみからみた、合格するための４つのポイント
・失格にならないこと　失格者(ランク４)にならなければ残りの半数が合格する試験。
・大枠をはずさないこと　主条件・ゾーニング(＋動線)　を守って、完成させる試験。
・常に減点に強い図面/要点をめざすこと　不合格になりにくい、読みオトシのない抜けのない図面/要点。
・そして、完成していること。

② そのための考え方として
・合格するのは、問題文の意図を理解して図面化した図面。 その理解をさらに要点でアピールする。
・迷う点、あいまいな点、記述があるべきであるのに表現されていない点は全て、合否ポイントである。
・必要なのは、題意を解釈して、理屈として解けていること（論理的整合性）。
・「エスキースで解く」という**攻め**の部分と、「作図でもれなく描く」「要点で説明する」という**守り**のイメージを！

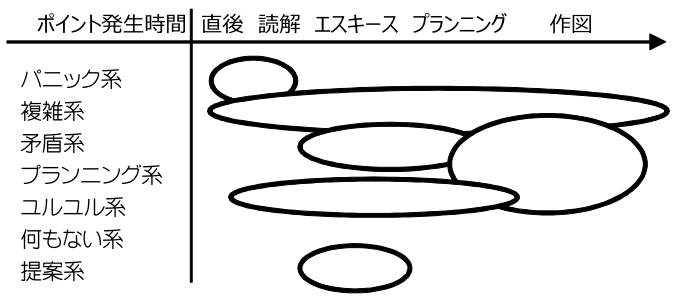
③ 重要な当日のタイムスケジュール
6 時間半をいかに有効に使うかが勝負の決め手。そのため、時間調整できることは、試験の合格要件である。
・2 時間エスキース　→ 90 分エスキース：エスキースをまとめるひとつの目安（スケルトンイメージ）
　　→ 30 分の調整しろ（バッファ）
・1 時間計画の要点　→ 1 時間以内でまとめ上げること。
・３時間製図　→ 要求図面等のみを忠実に押さえること。(目標！最小限図面)
・30 分の見直し　→ 見直しで 10 点違う。「点を拾いにいく感覚」があるか否か。
　　設計する視点ではなく、施主としてイチャモン（文句）を付ける視点で図面チェックすべし。

④ これから試験日までの残りのまとめ、時間の使い方
・使えるツールを精査し、まとめること。 そのために今までの課題をもう一度縦覧する＝縦に観ること。
　常に課題を　基本＋その課題の特殊解　として整理しながら観る、まとめること。
　製図試験.com 的に「建築する」とは、「集めて　→　分類して　→　決定する」 プロセス
　つまり、「今までの課題を全部集め、各部位ごとにチェックし、いつもと同じ部分と異なる部分を整理し、
　使えるようにまとめなおすこと」を「縦に観る」ことと言っています。
・今から新たな課題は、攻められる状態で無い限りはしない。 (混乱するだけの場合が多い→80%のクールダウンへ)

２．過去課題にみる合否ポイント

□イメージしておいてしていただきたい過去課題５つの難度パターン
注意しておきたいのは、難しさが発生する時間帯が異なること、様々な波が２度３度と訪れるであろうこと。

① 複雑系　平成15・１６・２０・２３・２７・２９
② 矛盾系　平成１３・１４・１６・２０
③ パニック系　平成１２・１３・１６・１７・２０
④ プランニング系　平成15・２０・２２
⑤ ゆるゆる系　平成１８・２１・３０
⑥ 何もない系　平成19・２５・26・27・28
⑦ 提案系　平成２４・２９



３－１．本年度課題について（製図試験.com 的課題分析）

本年度課題名［美術館の分館］について、現時点では、以下の９点のポイントが考えられます。

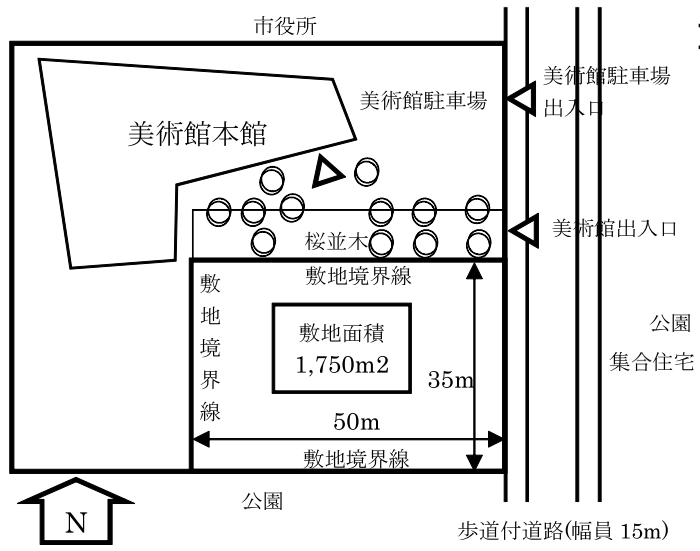
①美術館本館との関係性	②「美術館」の分館であること	③美術館の「分館」であることの意味
④利用者属性とゾーニング	⑤屋上庭園問題	⑥法規10点チェック（公表されている7点＋3点）
⑦構造・基礎・設備関連	⑧計画の要点	⑨初歩的ミス・その他

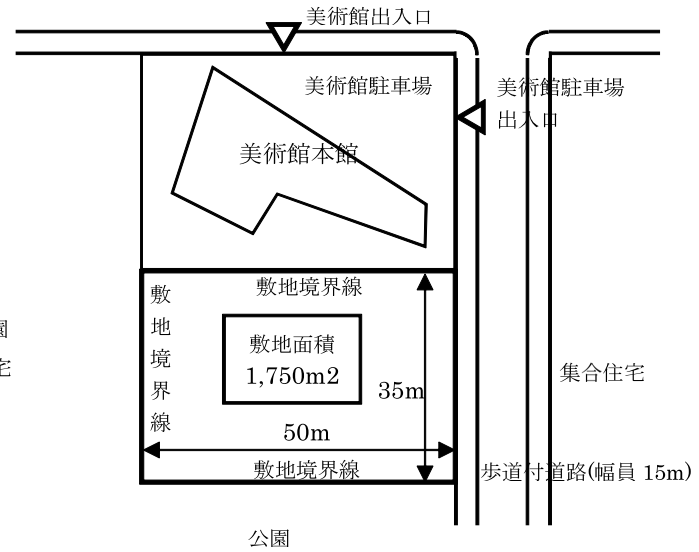
①美術館本館との関係性

分館にも接道義務があり、１）道路VS本館との関係が問題になる。次に２）接続方法では、間接外部接続、直接ブリッジ接続（Exp.J.）に大別される。さらに３）本館と分館との位置は、本館南北＝180度パターン、本館東西90度パターンとなる。
いずれにせよ、この３つのカテゴリが組み合わさって関係性が構築されるが、そもそも本館と分館の関係性をどのように構築しようとしているのか、というコンセプトに基づいて、空間計画がなされる必要がある。

１）道路VS本館
道路＞本館：分館としての独立性が高い
道路＝本館：道路からと本館からの関係性が同等
道路＜**本館**：本館敷地内のケースと考えられる

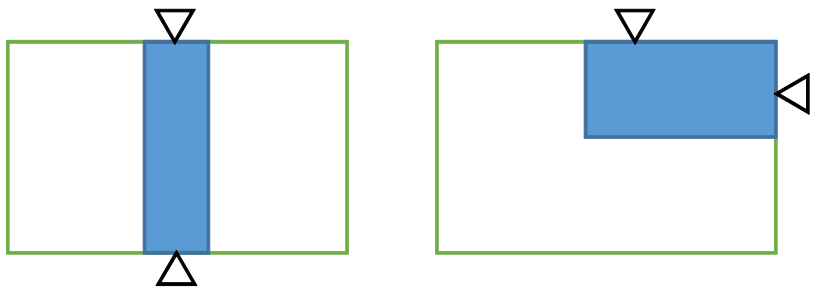
２）接続方法
間接外部接続＝h30パターンで舗道（桜並木）や敷地を通じてつながる。
直接ブリッジ接続＝h17、h20パターンでExp.Jを使う。
特につながない！





３）本館と分館の位置
本館が南or北＝180度パターン
本館が東or西＝90度パターン

本館と道路のアプローチが同じになるケースもあります。



②「美術館」の分館であること

・美術館として必要な仕様（共用部、展示室、収蔵庫）の建築計画
→ゆったりした共用部が必要。アトリエ・工房のあたりは人数が少ないので廊下でも可。
→展示室：天井高さ：4m引きで壁を観てch=3.5m程度。仰角27度、
　　採光なしの場合、ガラス窓＋遮光ブラインド（採光可）、排煙窓で遮光パネル、（採光なし）二方向避難に影響。
　　形状は必ずしも1:2の必要なし、市民ギャラリーとの利用形態分けあり。
→収蔵庫：そもそもあるのか不明。搬出入動線との関係性に注意
・美術館として必要な仕様（展示室、収蔵庫）の空調計画
→水損事故の未然に防ぐこと、温度湿度管理が必要なら①単一ダクト方式or②床置きダクト接続型＋再熱コイル＋加湿器対応

③美術館の「分館」であることの意味

・本館機能との関係性

→市民の創作活動、展示、学習機能に絞られるのか：本館の補完としての分館なのか、独立した機能なのか。

→それ以外の本館機能が付加される可能性：収蔵庫、市民ギャラリー、多目的ホール、学習機能。

④利用者属性とゾーニング

・４つの利用者属性（不特定利用者、受講者、創作者、市民側管理者）とゾーニングパターンを準備しておくこと。

属性	利用者	対応する要求室・屋外空間
①観る	不特定者が利用	共用空間（E ホール、カフェ、ラウンジ、広場他） 展示空間（市民ギャラリー、屋外彫刻空間） 多目的ホール（展示、
②学ぶ	名前を登録して学ぶ	会議室、図書室、AV ルーム、資料室、 レクリエーション室
③創る	材料を伴い創作する	工房、アトリエ、レッスン室、クラフト室、スタジオ ロッカールーム、休憩室
④管理 支援	施設管理者 市民スタッフ ボランティア	事務室 ボランティア室、ボランティアビューロー 一時保育室、キッズルーム

→展示部門位置問題：本来なら1階。しかしさらに強い部門が、レストラン、ショップ、管理他。

Cf：ゾーニングを EV で分けるか、EV は共用部として計画するのか。

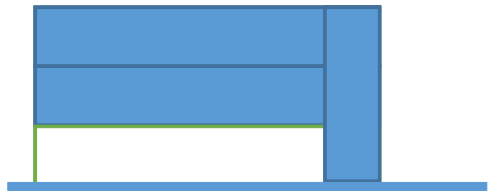


図 A：EV からは別部門

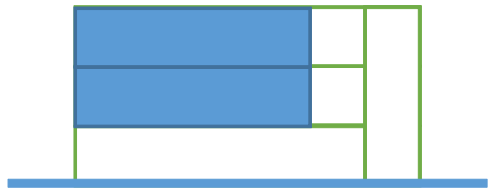


図 B：各階 EV ホールまで共用部

⑤屋上庭園問題

・未だ解明できない「屋上庭園」問題

屋上庭園

特徴としては、１）安らぎと癒やしの空間、２）省エネ遮熱効果、３）保護層として建築物の耐用年数向上、４）ヒートアイランド現象の抑制、５）雨水の一時貯留　等があります。

外部と内部をつなぐ（もしくは遮断する）中間領域としての屋上庭園

・公園側に屋上庭園を設けることで、屋上庭園越しに室内と公園をつなぎ、広がりある空間となるよう配慮した。

・屋上庭園の隣地側に目隠しパネルを設け、外部からの視線を遮りつつ、室内に緑を取り込めるよう配慮した。

雨水の処理を含む内外レベル差の解消と処理

・誰でも利用できるように、屋上庭園のスラブを200mm下げ、室内側とのフロアレベルを同一として歩行用デッキを設けた。またデッキ下部は防水層とし雨水処理を含むドレインを設けた。

緑化への配慮

・屋上庭園の緑化において、防水層、耐根層の選定、排水経路の確認、メンテナンス計画、潅水計画に配慮した。

・植栽の根が防水層を貫通する可能性が高いため、耐根層を配置し漏水防止に配慮した。

・事前に排水経路の確認を行い、また定期的なメンテナンスが可能となるよう点検口を設けた。

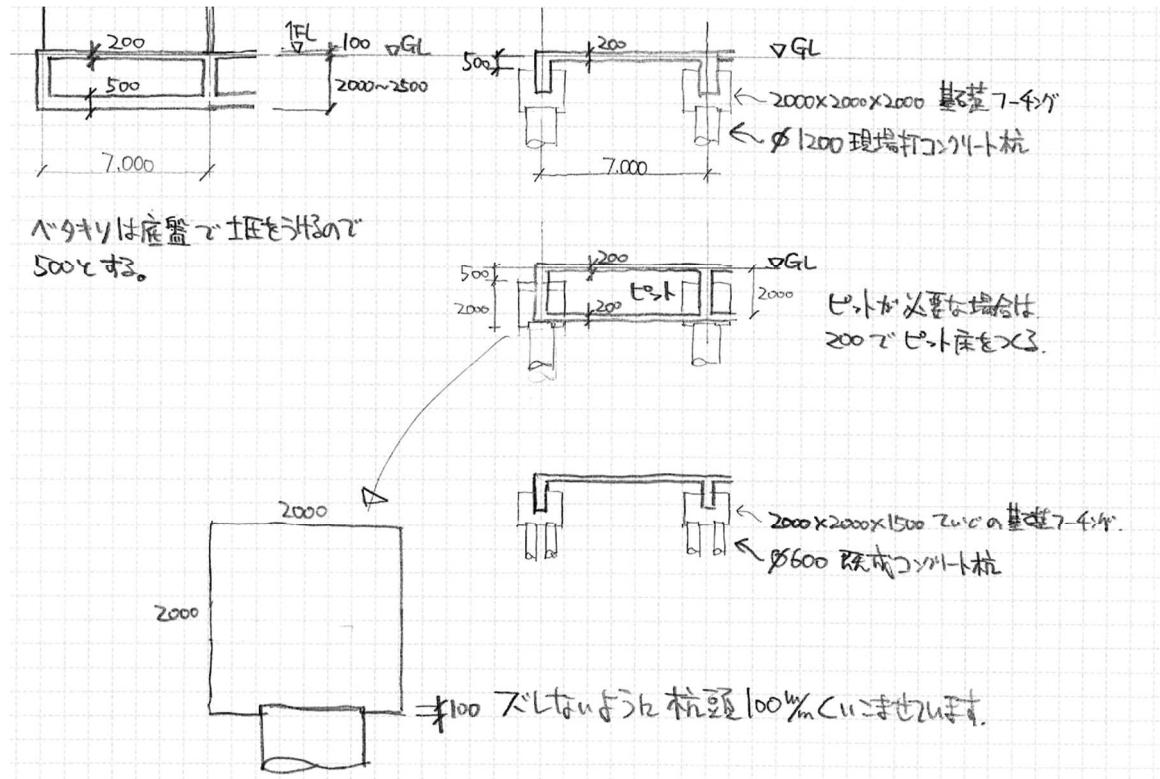
⑥法規10点チェック（公表されている7点＋3点）

・最終頁にチェックリスト提示

⑦-1 構造・基礎選定

基礎については、直接基礎（原則ベタ基礎）と杭基礎があります。支持地盤が GL-3m 程度なら浅層改良、3m から 10m なら柱状改良の上ベタ基礎とし、10m 以上なら杭基礎とします。斜面処理については、上記③の通りですが、地中梁底が、支持地盤から出ないように根入れ深さには注意してください。

片持ち梁、大空間については、ステップエスキースの P99 を参考にしてください。



⑦-2 設備関連

空調設備

A:全館単一ダクト方式：収蔵庫は CAV、それ以外は VAV、機械室は 2 コマ程度 DS あり

B:各階単一ダクト方式：同上、機械室は各階に 30m2 くらい。

C:併用：単一ダクト方式：収蔵庫は CAV、それ以外は空冷 HP パッケージ方式 3 点

D:空冷 HP パッケージ方式のみ（大空間床置きダクト接続型、エントランスホール天井隠ぺいダクト接続型、各室天カセ）＋全熱交換器による換気

※温湿度管理をする空調は、空気式の単一ダクト方式もしくは床置きダクト接続型＋再熱コイル＋加湿器　の二択。

電気設備

キュービクル（屋上、室内、屋外）＋EPS（上下階合わせる）

照明設備

全体照明：ダウンライト or ウオールウォッシャー（200～750lx）＋局所照明：ライティングレール（300～1000lx）

給排水設備

給水：ポンプ圧送方式（受水槽使う）or 水道直結増圧方式（受水槽なし）

排水：各階便所に PS、便所、流し台下に PS で横引きは 1 スパンまで

昇降機設備

EV カゴ+1m がシャフトの大きさ。2x2 のカゴなら、3x3 で収まる。油圧 EV は 10m 以内に EV 機械室必要

⑦-3 建築環境負荷低減関連

大きくは太陽光、太陽熱、通風というキーワードとそれに対して、夏期、冬期、季節のよい時期においてどのような効果を発揮するのかをまとめておけばよいです。加えて、図示できるようにしておいてください。

	クーリング（夏期）	ヒーティング（冬期）	プール対策
太陽光	日射は遮り、光は入れる	日射も光も取り入れる	ルーバー、ライトシェルフ、庇
太陽熱	日射・熱共に遮る 室内に熱を入れない逃がさない	日射は取り入れる 室内の熱を逃がさない	太陽熱パネル 断熱、ペアガラス、屋上緑化
通風	アースチューブ 井水による同方法	アースチューブ 井水による同方法	夏期の通風：ハイサイドライト、 トップライト（高窓、天窓）

⑧計画の要点対策

・暗記集は、http://seizushiken.com/DL2019/2019-youten-anki00.pdf

■知っている知識以上を計画の要点が求めてきたら。
建築計画原則に基づくこと。利用者が使いやすく、管理者が管理しやすく、というルールを念頭に置いて記述すること。
具体的に書けなくても、その2点については、理由として書けるはず。また、知っている知識を全て動員することは当たり前だが、知らないことまで知っているように書くと、かえって墓穴を掘る可能性があるので注意。
またどれだけ知らないことを問われても建築計画上では、４つの指標で表現できる可能性が高いです。「一体的に～」と問われても回答は、「外部アプローチを、建築配置を、動線計画上、ゾーニング計画上」の4点で説明できるはず。

さらにわからないからといって、絶対に空欄にしないこと。
＜心がけとして＞
本試験では、今まで想定もしていなかったことが、何点か含まれている。
初めての記述、意味不明な記述には十分注意しつつ、時間内に判断することが求められている。
気をつけるべきは、そのことで不用意に時間を取られすぎないこと。
本試験は時間との勝負であることを忘れないこと。
あなたがわからないことについては、他の受験生もわからない可能性が高い。とするとそれではあまり差が付かず、
結局、基本が崩れた方が、減点が大きくなり不合格になる。難しいと感じる問題ほど、基本を大切にしよう。

⑨初歩的ミス・その他

今年の添削を俯瞰する限り気がついたことも含めて。全体的に初歩的なミスで減点を受けている答案が非常に多かったです。
１）不一致：配置図-平面図不一致、平面不一致、平断不一致、ドライエリア、コア、吹抜け、屋根・・・。
２）室抜け：階に便所なし、機械関連室抜け、地下1階抜け(階段、ドライエリア、範囲、煙突他)
３）面積ミス：ピロティ面積ミス、吹抜け引き忘れ、階段吹抜け忘れ　→　必ず違う方法で検算すること

・動線計画・ゾーニング計画は、「建築計画の5原則」で考えて整理しておきましょう。
①わかりやすく、管理しやすいこと　②わかりやすい＝動線が短い、混ぜない　③管理しやすい＝目視・死角が少ない
④量、頻度、不特定度が高い、多いものをより優先する　⑤建築形状、各階バランスに配慮

・用紙に入らないエスキースをして、作図で苦戦する方が散見されます。レイアウトの確認を事前にしてください。
・問題が平易であるのにエスキースに時間をかけすぎると、見直し時間で差がついてしまいます。
・1階のプランを大切にしすぎて、メインコアサブコアの配置が、2階、3階で乱れている方が多い。
・面積の読み間違いが多い。Exp：ロッカー室―男女計50m2を各々50m2とした。

３－２．失格項目の整理

平成21年度の新試験制度から、足切り点が設定されています。
押さえておく必要があると思われる失格項目を解説しておきます。

未完

少なくとも時間管理することで、未完を防いでください。
計画の要点は、1問の空欄でも失格。

上下階不一致（階段、吹抜、建物外形）

上下階不一致するのは、①柱・寸法を描く時の写し間違い
②突然間違いを見つけた際の変更　しかありません。
このタイミングでのチェックを忘れないように。
またレベル、配置図・平面図不一致にも気をつけたい。

設計条件違反

□Ｉ設計条件及び４.留意事項で指摘している具体的な事項に
に対して、違反している場合、失格の恐れがあります。

面積違反

□面積オーバー／アンダーで失格にさせる可能性あり。
□加えて、建ぺい率７０％以下の場合には、建ぺい率でのオーバーも視野にいれましょう。

階数間違い

特に地下1階の面積・範囲指定と断面には最大限要注意

法令違反（指定7点＋3点）

□集団規定：建ぺい、容積、絶対高さ指定もあり。
道路斜線は天空率利用。
□単体規定：2方向避難（60/30）＋無窓(40/20)
防火区画、延焼の恐れのある部分等

動線・ゾーニング違反

□利用者、管理者が非常に不明瞭なもの
□出入口と共用・管理には注意

エレベーター設置違反

□台数、部門指定、用途指定があるかもしれません。
エレベーターは、必ず記述に従うこと。 自由でも
他の記述に注意。 どれが間違っていても失格です。

構造／設備

□著しい理解不足については、失格になっています。
基本的なメンバーリストは右表の通り

その他過去の本試験で失格になっているもの
著しい設計条件違反は失格となりますが、
意外な項目での失格があります。
- □ 所要室天井高さ指定違反(吹抜含む)
- □ 上階での吹抜と屋根の描き間違い
- □ 主要な要求室の欠落（特に便所）
- □ 図面枠の外に図面を描いたもの
- □ 要求室面積のごまかしが著しいもの

標準的な梁寸法

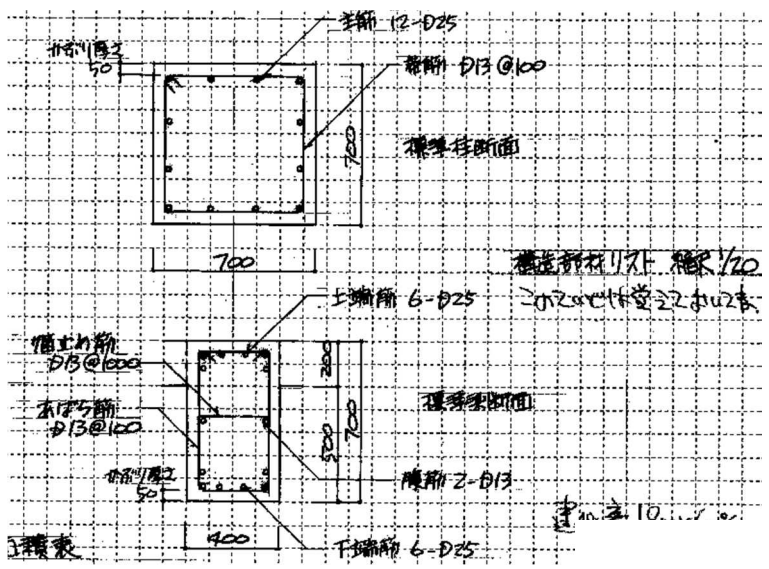
	スパン	Ｂ×Ｄ(幅×せい)	備考
RC	6	350×600	1/10
	7	400×700	1/10
	8	450×800	1/10
	9	500×900	1/10
Pc	8	350×700	PRC1/12
	9	400×750	PRC1/12
	10	450×850	PRC1/12
	11	500×950	PRC1/12
	12	500×1000	PRC1/12
	13	450×900	PC1/15
	14	500×950	PC1/15
	15	500×1000	PC1/15
	16	550×1100	PC1/15
	17	600×1150	PC1/15
	18	600×1200	PC1/15
SRC	7	500×700	1/10
	8	500×750	1/11
	9	500×800	1/12
	10	500×850	1/12
	11	550×900	1/12
	12	600×1000	1/12
	13	600×1100	1/12
	14	650×1200	1/12

	スパン	断面	備考
S	7	H-500×300	1/15
	8	H-600×300	1/15
	9	H-600×300	1/15
	10	H-700×300	1/15
	11	H-800×300	1/15
	12	H-800×350	1/15
	13	H-900×350	1/15
	14	H-1000×350	1/15
	15	H-1000×350	1/15
	16	BH-1100×400	1/15
	17	BH-1200×400	1/15
	18	BH-1200×450	1/15

標準的な柱寸法

	階数	寸法	備考
RC	5以下	700×700	
	6以上	800×800	
SRC	5以下	800×800	
	6以上	900×900	
S	5以下	□-500×500	
	6以上	□-600×600	

※ロングスパンの両側の柱は1サイズアップ



3－3．製図試験.com　エマージェンシーの一手

もしもの時について。
あまり文字にして残したくないのですが、とっさのトラブルの際の手段として、持っておくと護身用にはなるかな、と。

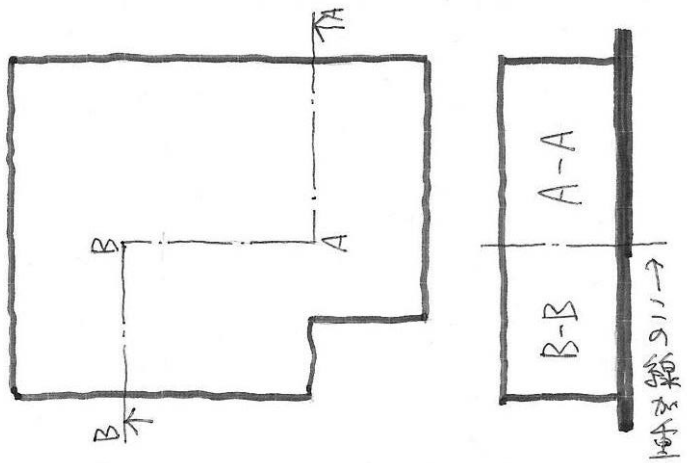
1）エスキースで面積オーバーの際　（今年は特に、各◎m2、計◎◎m2 での間違いが多い）
・平屋があれば、その部分からスパンを短くする
・共用部だけのスパンがあればそのスパンを短くする
・入玄関にして、風除室前を減ずる
・ピロティできる部分はセットバックする（例え 1m でも）
・±10%の範囲で要求室を小さくする
・要求されていない室をやめる（特に機械室・電気室・受水槽室・管理諸室）
・要求室のうち、50m2 以上のものは欠落すると失格と思っていて下さい。

2）建ぺい率に掛かることを直前に発見した場合
・庇は 1m 以内にする
・平屋があれば、その部分からスパンを短くする
・共用部だけのスパンがあればそのスパンを短くする

3）二方向避難ができてない室を発見した場合
・屋外階段を設ける。ただし建ぺい率・斜線には注意。（建ぺい率アウトの方がペナルティは重い）
・複数ある場合は、バルコニーをまわし（シャンプーハットのように）、バルコニーの 1 ヶ所に屋外階段を設ける。
二方向避難重複距離はそれでカバーされる。 室経由は不可、階段は 4 つ以上の階段も減点大。

4）エスキースが 2 時間で納まらない場合
・あなただけができないのではなく、まわりもできてない可能性があることを認識。つまり難しいということ
・2 時間でエスキースを終えるためには、1 時間 30 分の時点でまとまるかまとまらないかを判断する必要アリ。
・大空間、共用、管理が納まっていて、スパン及び面積がほぼ確定しているなら、とっとと切り上げる。
・便所や EV が納まらないこと、要求室が納まらないことで時間を使いすぎるのはもったいない。時間優先で、1）の方法をとってでも、進めることが重要。
・EV は最悪二方向出入口 EV を利用しても OK。
・室の比 1 ： 2 は無視してでもまとめること

5）断面図で切断位置がうまくいかない場合
・「Z 斬り！」を使って下さい。ここで表現として重要なのは、必ず断面図に一点鎖線が入ること。
一点鎖線を描かずに省略とかで描くと失格になる。



1枚の断面図で2面同時に描く方法と考えてよい。

6）計画の要点でどうしても分からない部分がある場合
・時間を取られても仕方ないので、問題文をそのまま写し、その上で、「最適な方法となるよう検討した。」と書く。
そのことで時間が取られることの方が危険。

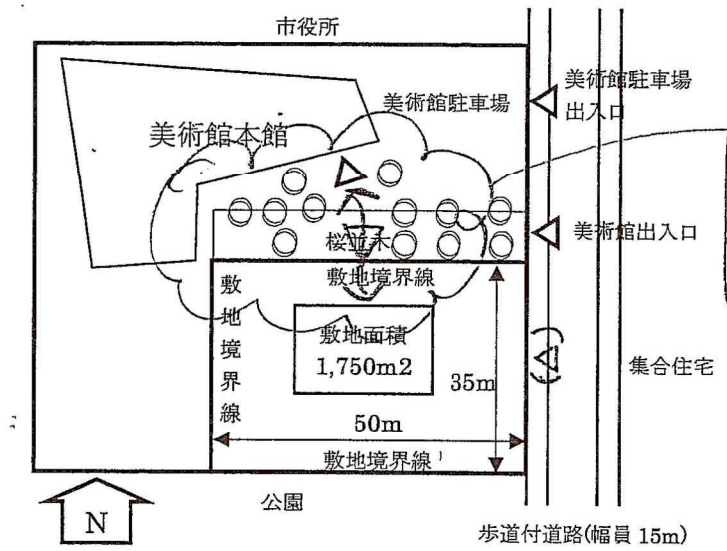
7）ダメだとしても未完を避けること
室が納まらなくても、建ぺい率や面積などの数字がオーバーしていない限りは、未完でない限り、土俵には残ります。
フリーハンドでもいいので完成させること。諦めたらそこで終わりです。
凡例を押えれば、単線プランでも過去には合格しています。開口部と壁と見え掛かりの線さえ描き分けていたら、単線でも土俵にのります。

8）意外なようですが・・・。
逃げるときも、心を込めて描く。これは重要です。逃げている気持ちで描くといいものにならない。
どうせなら開き直って、正々堂々、心を込めて描くことです。特に計画の要点。
採点する相手もまた人間なのですから、焦って、逃げて、描き殴った図面と、正々堂々と開き直りつつ心を込めてていねいに描いた図面なら、どちらに軍配が上がるかは明らかでしょう。

4．想定される本試験イメージ

①解答例がひとつではなく、選択肢が多数ある出題
②動線・ゾーニングの理解がチェックできる出題
③周辺環境、本館との関係性が問われる出題
④7x7 で 6x4 コマではない出題
⑤資格学校があまり手を出していない出題
この 5 点から想定される本試験イメージを作成しました。

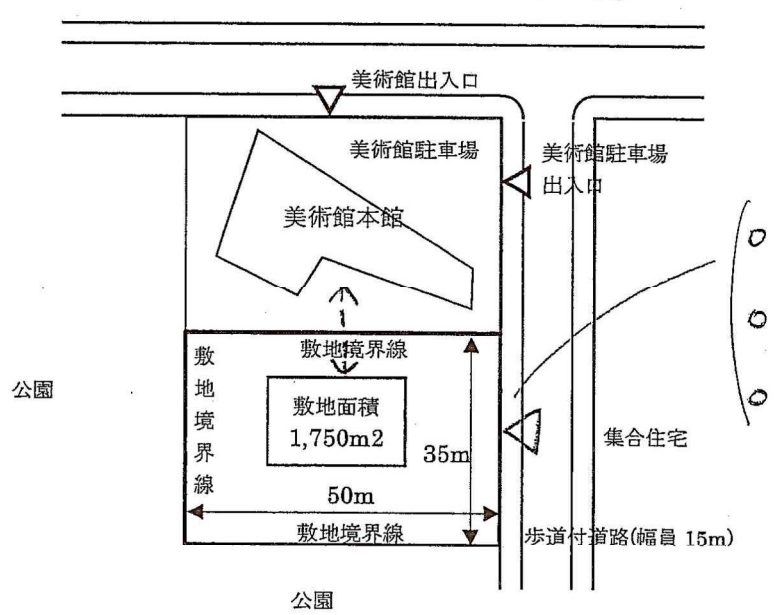
1：美術館敷地内を分割しつつ、一体的利用を図る分館（1-B）



○一体感のある空間
○分館アプローチも本館側から
○その上で道路からのアプローチ(有/無)

cf: Exp.J.でつなぐ場合の注意点
①3mまではRCもち出しキャンチレバー
②3m以上なら5造4つ足(300□ていど)
③建面，床面注意
④屋上庭園とからませる可能性アリ

2：全く異なる機能を新たに加えるための分館（2-B）



○新館とも言うべき分館
○本館アプローチはナブ。
○施設管理も全く別

上記について、Exp.J.でつなぐつながないという選択肢あり。

	Exp.J.でつなぐ	Exp.J.でつながない
1：一体利用の分館(一体的)	1－A	1－B
2：新たな機能の分館（対比的）	2－A	2－B

⇓
内部での機能連携に注意！

5. 最終チェックリスト （転載不可・コピー不可） 必ずひとつひとつ確認してください。 ver1.0

はじめに

□ 体調を万全にしてのぞむ。
□ 問題文を読む前に、いつも忘れそうなことを問題文の欄外に書くこと。
□ 難しさを測ること-難しさに応じて作戦を変更すること。 -難しさによってタイムスケジュールを変える。
□ 知らないことで自分を見失わないこと。自分のパターンに持ち込む。今までやったことのないことは基本的にしないこと。
□ 問題文が答え。全て載っている。解答用紙が答え。ココにしか描けない内容しか出題できない。
□ パレートの法則：最初の20%で全体の80%が決まる。
□ **この施設が「美術館の分館」であること**を忘れないこと
□ 自身の合格を確信し、最後の最後まで絶対諦めないこと。

ES00-01コンセプト条件読解

□ 設計条件は絶対遵守。
　１）**「美術館の分館」**であることを忘れないこと。
　２）ESTEP-00 全体構成に影響を与える６点
　　①本館との関係性 ②敷地条件 ③敷地形状(7x7、6x7、7x6、他)
　　④要求室(50/40) ⑤大空間の大きさ・設置階指定 ⑥屋上庭園・設置階指定 からイメージを作ること。
□ 見慣れた言葉は味方として。見慣れない言葉に最重点注意。
□ 設備系の指定には注意 受水槽、キュービクル、空調方式等。特にEVの部門・用途設定は、間違えると失格事項。

ES02要求図書

□ 配置図、平面図の特記事項を絶対逃さない。
□ 特に目新しい表記、 見慣れない指示事項には最大限注意。面積記入・造作記入。切断位置なども注意しよう。
□ 断面図は、切る場所のチェック・切る方向のチェック→用紙に書き込んでおくこと。
□ 計画の要点／面積表はできるだけ最初に書くこと。(最後は手が震える)面積は違う方法で検算すること。

ES03敷地条件

１）敷地・計画エリア形状 ２）接道条件 ３）隣地条件 ４）レベル差他 の4つの視点でチェックする。
□ まず敷地形状の確認 （6x7,7x6,7x7のいずれかで、外構空き確保、敷地境界2mの空き可能か否か）
□ アプローチ道路の確認。また本館や公園等からのサブアプローチはさらに確認！
□ 周辺敷地の優先順位の確認。眺望は指定がない限り配慮しなくてよい。
□ 道路をはさんでの環境はあまり重視しなくてよい。
□ 隣接敷地の建物形状まで出題されることもある（H16,H7,H21）
□ 建蔽率70%以下の場合、大きな広場があるか、建蔽率によってコマ数アウト、がでてくるので要注意。
□ 8m以下の道路は道路斜線要注意。住居系1.25。公園、河川は緩和あり。
□ 絶対高さ、後退距離、基礎・地盤支持層等はこの部分に記載してあるので注意すること。

ES04建築物

□ その他、「ピロティ、バルコニー、塔屋、屋外階段」の4項目以外に算入しない面積（屋外テラス等）を書き出しておくこと。
□ h29型「ピロティ等の屋内的用途の面積算入3項目」には最大限注意。もしピロティを採用した際は平面図に面積範囲を記入すること。
□ アプローチ指定があるのはたいていココなので、細心のチェック。

ES05屋外施設

□ プラザ・広場・オープンスペース等はひさしやピロティ部分を含むかとアプローチに使ってよいか必ずチェック。
□ 集会機能が要求される場合は、１：１か１：２が原則。 それ以外は１：２をはずしてよい。
□ 駐輪場10台（5mx4m）はパーツを準備しておこう。駐輪場あなどるべからず。

ES07要求室

□ 面積、室数、諸条件を、間違えたり、忘れたりすると即減点大。
□ 展示室等の大空間は計画スタートする階を決めておこう。（exp：2階、1階、3階）また動線に注意すること。
□ 柱の梁受け＝構造不安定として絶対に禁止。
□ 集会機能が求められる場合、1：2原則
□ コーナー・ロビー・ラウンジ・サロン・ホワイエは室として求められない限り、原則室とせずオープンとする。

◆特に難しい言葉について ／ 仕掛けてくるだろうポイント

□ 和製英語のような専門用語に関しては、とにかくびびらないこと。
　＝知っている空間に置き換える。体験したことのない空間は出題されない。
　ガレリア：ガラス屋根の回廊、吹き抜け廊下状の空間など。
□ 外部―アプローチが決めにくい。公園・グランドへのアクセス。駐車場多い、駐輪場多いのでピロティ。勾配屋根。
□ 内部―建築中央部の吹抜けや光庭、中庭。部門の独立と共有。
□ 観たことがない要求室。全く考えてなかった何かが盛り込まれる可能性も十分ある。
□ exp： 「動線に配慮」＝「動線に配慮してないとはいえない」提案をすれば大丈夫（減点法的解釈）

法規チェックポイント

① 延焼の恐れのある部分は柱を描き終わった段階で入れる。3m-5mで公園、河川は緩和。隣地が民地なら緩和なし
② 次に防火区画
　・面積区画：面積1500m2ごとにただ単に区画する1500m2
　・竪穴区画：3層吹抜けは1階や地下1階も。**2-3階の竪穴区画の防火設備**は抜けがちなので注意
③ 最後に外部区画：面積区画・竪穴区画がかかわる外部900mm以内は壁もしくは防火設備とする。
④ 二方向避難：採光無窓展示室は40/20m。足らないときは第3の階段を計画＋斜線注意。
⑤ 敷地内通路は、1階出入口から敷地内を通過して道路までのルートの確保
□ 排煙無窓室 100m2以下の事務室無窓なら「建設省告示1436号より仕上下地ともに不燃材料とし排煙免除」と記載。
　・100m2超えなら、①高窓型排煙窓、②天窓型排煙窓、③機械排煙（1x1DS＋エンジン付排煙機）のいずれか。
　廊下の排煙：30m以内、廊下の突き当たりには排煙窓を設けること。不可能な場合は、上記②③で対応
⑥ 建ぺい率対応は前々頁にて解説
⑦ 容積率は、h26からEVシャフトについて床面積には算入するが、容積率からは全て除くこととなっている。
⑧ 道路斜線は2Aかつ35mでも当たる場合は「天空率計算による緩和を用いる」と書く。それが問題文に書いてある場合は必ず道路斜線でのバッティングを狙っている出題であると予想すべし。
⑨ 非常用進入口は3階、道路側＋4m以上空いている敷地で共にはしご車が入れるところに計画。建物端から20mのところ当たりに計画したらほぼ網羅できる。もしくは10m以内ごとに代替進入口を設ける。3階でも吹抜けには設けなくてよい。
⑩ BF法は、円滑化誘導基準で適用。図面に出てこないモノ：施設案内板、点字ブロック、EV内の音声案内等

その他

□ 計画の要点は、1問でも白紙は失格。
□ 難しいと思う計画の要点の場合、少なくともそこだけ残して他を完全に仕上げ、時間を不用意に取られないこと。
□ 難しいときは描き込み量勝負。簡単なときは丁寧な描き込みの質勝負。
□ 自分がパニックになるときは回りも実はパニックになっていることを忘れるべからず。
□ 上下階不一致を防ぐために
　①チェックで通り芯を入れること（たかだか1分程度）②両手を使って、位置を図面上で確認すること
□ 検算方法、最終図面のあるなしチェック方法、図面のエスキース、問題文でのクロスチェックの確立を。

最後に

■試験とは、究極、時間との勝負です。**時間に追われる展開ではなく、時間を追う展開を心がけてください。**
力を出し切ること、ミスを極力少なくすれば、3時間で図面が描ける人は絶対に合格できます。
でも力が出し切れず、ミスをするのが人間という生き物です。
力を出し切るには、平常心。深呼吸すること。これは80%の力で臨み、20%の余力を残して戦うということと同義です。
ミスをなくすことはできないので、チェックする時間をつくること。
これだけで合格率は10%上がることを最後まで忘れずに。

健闘を祈る。祈合格。

2019年10月5日

製図試験.com代表 山口 達也